

保育原理

概要

保育の専門職として学習を進めるための基礎的な知識、意識すべき論点を取り上げ、その背景や現状について理解を深める。また、日本を中心として保育の思想、制度の歴史の変遷を整理し、現代社会における現状と課題について学ぶ。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育の意義について理解する。
 保育所保育指針や幼稚園教育要領等における保育の基本について理解する。
 保育の内容と方法の基本について理解する。
 保育の思想と歴史の変遷について理解する。
 保育の現状と課題について考察する。

各回の内容

1. 保育とは何か
2. 保育の基盤としての子ども観
3. 子ども理解
4. 保育の基本と保育内容・方法
5. 保育の計画と実践
6. 子どもが育つ環境
7. 子どもの健康と安全
8. 障がいのある子どもへの対応
9. 保育の歴史
10. 保育者の専門性・役割
11. 家庭支援と子育て支援
12. 保育の評価
13. 保育の質の向上
14. 保育の現状と課題
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

森上史朗 他 編『最新保育講座1 保育原理』ミネルヴァ書房、2015年

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年

教職入門

概要

保育者の役割について理解し、その専門性について考察し、連携・協働、資質向上について理解する。

担当教員	齋藤 美智子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育者への入門的な知識や技術を身に付け、自覚を持つことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 保育者の専門性
3. 保育者の制度的位置づけ
4. 保育者の資質・能力
5. 養護及び教育の一体的展開
6. 家庭との連携と保護者に対する支援
7. 保育の質の向上とは
8. 保育における職員間の連携・協働
9. 専門職間及び専門機関との連携・協働
10. 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
11. 資質向上に関する組織的取り組み
12. 保育者の専門性の向上とキャリア形成
13. 組織とリーダーシップ
14. 保育者の原動力とは
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・「広場」に参加し、子どもと関わったり、保育者の子どもの関わり方を観察して学ぶ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポート50% レポート50%

教科書

参考文献

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

保育課程論

概要

教育課程と保育課程の意義、指導計画の役割と立て方などについて理解を深める授業を展開する。グループワークなどを通し、指導計画を作成してみる。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育をするうえで重要な計画について理解するとともに、実際に作成出来る力を養う。自分の保育を振り返り、改善点を見つけ、保育の充実につなげられる様になる。実習や保育現場で役に立つ、実践力を身に付ける。

各回の内容

1. 保育課程、教育課程とは・計画を立てる意義
2. 指導計画の種類と役割 1
3. 指導計画の種類と役割 2～幼稚園実習の1週間から考える
4. 保育における計画の考え方～0、1、2歳児を中心に
5. 保育における計画の考え方～0、1、2歳児の指導計画の特徴
6. 保育の計画と評価～環境に働きかける子どもたち：さくらっこ広場のドキュメンテーションを見る
7. 保育における計画の考え方～3、4、5歳児を中心に
8. 和光保育園の保育の計画の見直しの実践事例購読
9. 和光保育園の保育計画の見直しをもとにグループワークのテーマについて話し合う
10. 保育の計画についてグループワークを行う
11. グループワークの発表と共有
12. 計画作成の実際：4歳児の子どもの実態から指導計画を考える
13. 計画作成の実際：2歳児の子どもの実態から指導計画を考える
14. 小学校との連携・接続について
15. 保育の充実、保育の質の向上

準備学習（予習・復習等）

「親と子の広場」への参加など、実習以外で、子どもや保護者と関わる機会を出来るだけもつこと。子どもの年齢ごとの発達に関する知識をつかんでおく。前もって教科書を見ておくことが望ましい。授業で紹介した参考文献や資料を読み、より深く学びたい自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

指導案など50%
授業の際の小レポート20%
最終レポート30%

教科書

柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編『保育課程・教育課程総論（最新保育講座）』ミネルヴァ書房

参考文献

育ちあいの場づくり論 鈴木まひろ・久保健太・ひとなる書房

こども家庭福祉

概要

児童の権利を保障する観点から児童とその家庭を取り巻く生活の現状とその課題について取り上げる。また、児童とその家庭が抱える福祉問題に対する施策、制度、サービス等について取り上げる。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会における児童家庭福祉の意義について理解することができる。
 児童家庭福祉と保育との関連性および児童の人権について理解することができる。
 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができる。
 児童家庭福祉の現状と課題について理解することができる。
 児童家庭福祉の動向と展望について理解することができる。

各回の内容

1. 現代社会と児童家庭福祉
2. 児童家庭福祉の概念と理念 児童家庭福祉の概念と範囲・理念
3. 児童家庭福祉の概念と理念 児童の権利と児童虐待
4. 児童家庭福祉需要の内容と把握方法
5. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉の法制・児童福祉法
6. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉関連法規
7. 児童家庭福祉の実施体制 児童福祉の組織
8. 児童家庭福祉の実施体制 児童相談所および児童福祉司・児童心理士
9. 児童家庭福祉の実施体制 福祉事務所・保健所・家庭裁判所等および児童福祉施設
10. 児童家庭福祉・保健・医療サービスの現状 保育と養護および施設福祉サービス(里親を含む)
11. 児童家庭福祉・保健・医療サービスの現状 在宅福祉サービスおよび保健・医療サービス
12. 民間サービスの意義と役割および現状
13. 児童および家庭に対する相談援助活動
14. 児童家庭福祉をめぐる我が国と諸外国の動向
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

相澤譲治・井村圭壯編著『児童家庭福祉の理論と制度』勁草書房、2011年

参考文献

その都度、紹介する。

保育基礎演習

概要

保育実践の基礎について保育参加観察での実践を振り返りながら学ぶ。乳幼児とかかわる中での気づきや疑問，葛藤をVTR記録を見ながら話し合い，共有する中で考えあう機会を重ねる。実習記録の書き方を，参加観察の中のエピソードを取り上げながら学ぶ。

担当教員	狩野奈緒子・長谷川美香
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育実践の基礎について，保育参加観察を通して，学び理解する。
実習記録を書くにあたっての視点や，書き方について実践を通して理解する。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 子どもとのかかわり
3. 親と子の広場について
4. 保育所の保育について
5. 参加観察中での気づき
6. 発達と遊びの変化
7. 子どもとのかかわりから学ぶこと1
8. 子どもとのかかわりから学ぶこと2
9. 子どもとのかかわりから学ぶこと3
10. 保育者と子どもとのかかわり
11. 観察記録の書き方1
12. 観察記録の書き方2
13. 観察記録の書き方3
14. 参加観察からの気づきを話し合う
15. 参加観察からの話し合い発表とまとめ

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場などに積極的に参加する。
観察の視点を持って保育参加観察に臨む。
授業で紹介した参考文献を読み、今後学び続けたい自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

保育観察事後レポート30%
発表と課題レポート70%

教科書

対話から生まれる乳幼児の学びの物語 子ども主体の保育の実践と環境 大豆生田啓友編著 Gakken

参考文献

その都度紹介する

保育内容総論

概要

今日の保育の現状や課題について理解を深める。
保育内容全般を概観し、保育者の子ども理解の過程や、保育者に求められる姿をまなぶ。

担当教員	斎藤美智子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育の目標、子どもの発達、保育の内容を通して、総合的な保育内容の理解を深めることができる。

各回の内容

1. 教育基本法と幼児期の教育
2. 保育内容の理解 1 保育所保育指針
3. 保育内容の理解2 幼稚園教育要領
4. 保育の全体構造と保育内容
5. 保育の1日の流れ
6. 子どもの育ちと保育内容 1
7. 子どもの育ちと保育内容 2
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場やボランティア等で積極的に子どもと関わる。

必要な部分は、テキストを読み、授業に備える。

授業で紹介した参考文献を読み、より深く学びたい自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りシート40%

課題レポート60%

教科書

参考文献

幼稚園教育要領 保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

保育内容演習（人間関係）

概要

関係発達論的視点について学び、保育場面の映像資料を題材に、他者との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

担当教員	奥田美由紀
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

- ・人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。
- ・乳幼児期の遊びや生活の中で育まれる人と関わる力を具体的な子どもの姿から説明できる。

各回の内容

1.	子どもを取り巻く現代社会の状況	
2.	大人のかかわりが子どもの心身に及ぼす影響	
3.	3歳未満児における人間関係の発達	愛着から自律へのプロセス
4.	子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿	「ジブンデ」から始まる自立心の育ち
5.	子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿	目標を共有しやり遂げようとする協調性の育ち
6.	子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿	人としてどうありたいかという道徳心ときまりの必要性への気付き
7.	子どもが環境とかかわりながら主体的に生きていく姿	幼児期に経験させたい地域の人とかかわり
8.	人とかかわる力が及ぼす学びに向かう力・人間性への影響	乳幼児期から学童以降の学びへ

準備学習（予習・復習等）

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針の領域「人間関係」を読んでおくこと
「親と子の広場」に自主的に参加し、子どもの遊びや人とかかわりを観察してみること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

演習シート40%
最終レポート60%

教科書

幼稚園教育要領解説
保育所保育指針解説

参考文献

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

保育内容演習（言葉）

概要

領域「言葉」に関して、具体的な事例等を取り上げながら、子どものことばの育ちについて学ぶ。保育の中で出会う子どもとの係わりの中で、ことばの力を育むための保育内容や係わりの在り方について、観点を挙げて考察を深める。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

ことばの発達を促す保育内容について理解し、保育者としての子どもとの係わり方について考える。

各回の内容

1. 保育の基本とは
2. 保育の専門性とは
3. 領域言葉のねらいと保育者の役割
4. 領域言葉と保育内容
5. 環境構成と領域言葉
6. 指導計画と領域言葉
7. 保育実践の中で領域言葉を考える
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

子どもの日常的なコミュニケーションやことばの使い方に注目し、事例を通して考えることに興味を持つ。
授業で紹介した参考文献や資料を読み、より深く学びたい自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポート30%
課題レポート70%

教科書

最新保育講座 保育内容「言葉」 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編 ミネルヴァ書房

参考文献

対話から生まれる乳幼児の学びの物語 大豆生田啓友編著 学研

保育内容演習（表現）

概要

保育現場でよく扱われている絵本を主に、「表現」についての理解を深めていく。具体的な授業内容については随時提示するが、何れにおいても「表現」を多方面から認識しながら実践することを基本とする。

担当教員	絹川文仁
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

幼稚園教育要領等、保育の根幹としての「表現」についての理解を深め、幼児理解を伴いながらその実践を重ねていく。

各回の内容

1. 「表現」のねらいと内容の理解
2. 「表現」の可能性の追求
3. 「表現」と評価
4. 幼児と「表現」
5. 「表現」と具体的教材
6. 「表現」と指導案
7. 模擬保育における「表現」
8. 「表現」における実践例と未来の構想

準備学習（予習・復習等）

担当教員の助言のみならず、本学図書館の資料も積極的に活用すること。また、授業で参考となった資料等は、経済的事情が許す範囲で自ら購入しておく、将来の保育業務で大いに役立つものがある。尚、毎回の授業で実践するポイトレ等のボディテクニックは、日常的に行うほどに効果が増すので、必ず反復してほしい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個々の発表の評価（60%）
レポート（40%）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業時に紹介する。

保育内容演習（表現）

概要

保育現場でよく扱われるこどもの歌を主に、「表現」についての理解を深めていく。具体的な授業方法については随時提示していくが、各回の授業内容の通り、「表現」を多方面から認識しながら実践していくことを常とする。

担当教員	絹川文仁
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

将来の保育現場を見据えながら、こどもの歌の実践を重ね、「表現」についての理解を深めていく。また、教材によっては視覚的な工夫も施し、こどもの感性により良い刺激を与えることも研究する。

各回の内容

1. こどもの歌と「表現」について
2. こどもの歌の表現の可能性
3. こどもの歌の評価について
4. 幼児とこどもの歌
5. こどもの歌と視聴覚教材
6. こどもの歌と指導演
7. 模擬保育におけるこどもの歌
8. こどもの歌の未来の構想

準備学習（予習・復習等）

自分で解決できない部分が少しでも生じたら、必ず担当教員に質問すること。本学図書館の諸教材や資料も積極的に活用すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個々の発表の評価（60%）
レポート（40%）

教科書

こどものうた200（チャイルド本社）

参考文献

授業時に随時紹介する。

保育内容演習（健康）

概要

幼稚園教育要領解説、保育所指針に謳っている領域「健康」と子どもの発達段階を理解し、幼稚園実習で観察したこどもの様子や教師の働きかけを振り返り、「こどもにとって遊び」とは何か、「こどもにとって健康とは何か」を考察する。その上で、グループで発達段階に応じた「遊び」の指導案を作成し、模擬保育を行う。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

領域「健康」のねらい及び子どもの安全、生活習慣を理解し、保育所や幼稚園における集団生活において、こどもが苦しい、悲しい、辛いと感じるような困難なことに対してこども自らの力で乗り越え、日々の生活を「楽しい」と感じて送ることができるようになるためには保育者はこどもの気持ちをどのように理解し受け止め、援助をすればよいのかまた、どのような環境を設定することが必要なのかを考察できる。

各回の内容

1. ・オリエンテーション ・領域「健康」のねらいについて
2. ・「健康」の定義と「こどもの健康」について ・スカモンの発達段階 ・頭尾法則・中枢末端法則について
3. ・子どもの発達について（動作発達の特徴、情緒発達の特徴、ピアジェの発達理論）
4. ・環境設定における留意点（安全面、衛生面）、生活習慣における留意点（食事、整理整頓、衣服の着脱、排泄等）
5. ・3歳児の発達の特徴 ・模擬保育（3歳児）
6. ・4歳児の発達の特徴 ・模擬保育（4歳児）
7. ・5歳児の発達の特徴 ・模擬保育（5歳児）
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・予習、復習として幼稚園教育要領解説 p 2 ~ p 8 9（序章・1章・2章《健康》）までを熟読する。
- ・予習として、幼児の「運動遊び」を調べ、指導案を作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 指導案 50%（安全面並びに衛生面、発達段階を考慮した指導計画を立案する）
 模擬保育 50%（安全面並びに衛生面、発達段階を考慮した指導を行うことができる振り返りが適切である）

教科書

文部科学省 編 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2010年
 厚生労働省 編 『保育所保育指針』

参考文献

その都度、授業で紹介する。

保育内容演習（環境）

概要

子どもを取り巻く環境の重要性を認識し、子どもを取り巻く環境について学びを深める
 人的環境としての保育者の役割を知り、具体的ななかかわりについて考えを深める

担当教員	斎藤美智子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

乳幼児期における環境の重要性を認識し、子どもを取り巻く環境について学びを深め、保育者として適切な援助ができる。

各回の内容

1. 環境とは
2. 子どもの育ちと領域「環境」
3. 子どもの育ちと領域「環境」
4. 子どもの主体的な遊びと環境
5. 保育者の意図と環境構成
6. 環境構成の実際
7. 環境構成の実際
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針の領域「環境」をよんでおくこと。
 「親と子の広場」に参加し、子どもと環境とのかかわりを観察してみる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りレポート 40%
 課題レポート 60%

教科書

幼稚園教育要領解説

参考文献

保育所保育指針
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

保育表現技術(音楽表現)

概要

常に保育の目標と保育現場を多方面から認識しながら、以下の具体的な学びを続ける。

保育に必要な曲の演奏、伴奏、弾き歌いを体得する。
楽譜を読むための基礎知識や、発声法を習得する。

担当教員	絹川・高田・菅野(仁)・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

こどもの発達に応じつつ、音楽の美しさや表現方法を伝えるための技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 表現とピアノについて (4月の歌)
2. 表現とピアノについて (4月の歌)
3. 表現とピアノについて (4月の歌)
4. こどもの理解とピアノ(5月の歌)
5. 視聴覚教材とピアノについて(5月の歌)
6. 他者のピアノ表現からの学び(6月の歌)
7. 保育の中のピアノ表現(6月の歌)
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

各担当教員の指導の下、個々の課題曲を完全にマスターするために、少しでも不明な点は、必ず担当教員に確認すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人発表による課題達成度100%

教科書

こどものうた200(チャイルド本社)
ジュニアクラスの楽典(ドレミ楽譜出版)

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に提示する。

保育表現技術 (音楽表現)

概要

常に保育の目標と保育現場を多方面から認識しながら、以下の具体的な学びを続ける。

保育に必要な曲の演奏、伴奏、弾き歌いを体得する。
楽譜を読むための基礎知識や、発声法を習得する。

担当教員	絹川・高田・菅野(仁)・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

こどもの発達に応じつつ、音楽の楽しさや表現方法を伝えるための技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. ピアノ表現についての多角的理解(7月の歌)
2. 幼児とピアノ表現について(7月の歌)
3. 主体的なピアノ表現について(7月の歌)
4. 対話的なピアノ表現について(8月の歌)
5. 深い学びとしてのピアノ表現について(8月の歌)
6. 指導としてのピアノ表現について(8月の歌)
7. 保育を構想してのピアノ表現(9月の歌)
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

各担当教員の指導の下、個々の課題曲を完全にマスターするために、少しでも不明な点は、必ず担当教員に確認すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人発表による課題達成度100%

教科書

こどものうた200(チャイルド社)
ジュニアクラスの楽典(ドレミ楽譜出版)

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する。

保育表現技術 (音楽表現)

概要

常に保育の目標と保育現場を多方面から認識しながら、以下の具体的な学びを続ける。

保育に必要な曲の演奏、伴奏、弾き歌いを体得する。
楽譜を読むための基礎知識や、発声法を習得する。

担当教員	絹川・高田・菅野(仁)・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

こどもの発達に応じつつ、音楽の楽しさや表現方法を伝えるための技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 保育理念とピアノについて(10月の歌)
2. ピアノとこどもの歌の関わりについて(10月の歌)
3. こどもの経験とピアノについて(10月の歌)
4. 初等教育と保育におけるピアノについて(11月の歌)
5. こどもの発達におうじたピアノについて(11月の歌)
6. 学びとしてのピアノについて(11月の歌)
7. 模擬保育とピアノについて(12月の歌)
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

各担当教員の指導の下、個々の課題曲を完全にマスターするために、少しでも不明な点は、必ず担当教員に確認すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人発表による課題達成度100%

教科書

こどものうた200(チャイルド本社)
ジュニアクラスの楽典(ドレミ楽譜出版)

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する。

保育表現技術 (音楽表現)

概要

常に保育の目標と保育現場を多方面から認識しながら、以下の具体的な学びを続ける。

保育に必要な曲の演奏、伴奏、弾き歌いを体得する。
楽譜を読むための基礎知識や、発声法を習得する。

担当教員	絹川・高田・菅野(仁)・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

こどもの発達に応じつつ、音楽の楽しさや表現方法を伝えるための技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 保育に要求されるピアノについて(1月の歌)
2. 育むべきピアノ能力について(1月の歌)
3. 他領域との連関におけるピアノ(2月の歌)
4. こども理解とピアノ(2月の歌)
5. 深い学び(生涯学習等)とピアノについて(3月の歌)
6. ピアノにおける表現と具体的プロセスについて(3月の歌)
7. 弾き歌いとこどもについて(春の歌)
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

各担当教員の指導の下、個々の課題曲を完全にマスターするため、少しでも不明な点は必ず担当教員に確認すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人発表による課題達成度100%

教科書

こどものうた200(チャイルド本社)
ジュニアクラスの楽典(ドレミ楽譜出版)

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する。

保育表現技術(造形表現)

概要

保育の現場に必要な造形表現の基礎である、色彩の効果、描画材料・素材の特徴、紙や粘土などの立体表現の知識や技術を作品の制作（教材研究として）を通して身に付ける。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

保育者自身が造形活動を通して、その楽しさ・面白さを味わい、豊かな感性や創造力を身に付けることができる。そのために必要な材料や道具等に関する具体的な知識や技能を身に付けることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 色を楽しむ（色の性質）
3. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
4. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
5. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
6. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
7. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
8. 造形表現技法体験（平面 色鉛筆）
9. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
10. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
11. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
12. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
13. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
14. 造形表現技法体験（平面 クレヨン）
15. 造形表現技法体験（画材と紙の特徴）

準備学習（予習・復習等）

事前に題材のアイデアスケッチや資料収集をする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題制作の構想10%、課題作品評価80%、制作の意欲・態度10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術(言葉)

概要

制作後の鑑賞会や作品のタイトル提示など、造形表現から子どもが獲得した「言葉」のイメージや意味がさらに広がりや深まりを見せること。また、逆に保育者の効果的な「言葉」の提示が、子どもの豊かでのびのびとした造形表現を導き出すこと。これらのことを造形活動を通して理解する。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

子どもが経験から育んだ言葉やそれから受けるイメージを生かし、さらに感性豊かな造形作品として表現させる知識や技能を身に付けることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
3. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
4. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
5. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
6. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
7. 季節を形に表す(立体-紙の造形)
8. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
9. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
10. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
11. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
12. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
13. 季節を形に表す(立体-粘土の造形)「ステキなケーキ屋さん」
14. タイトルから自分だけの表現に(動物の特徴をとらえる)
15. タイトルから自分だけの表現に(動物の特徴をとらえる)

準備学習(予習・復習等)

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題制作の構想	10%
課題作品評価	80%
制作の意欲・態度	10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

こどもとことば

概要

子どもの言葉の発達について学び、発達段階に応じたかかわり方について考える。保育者として、子どもの言葉の発達を支える方法について考える

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

子どもの言葉の発達について理解し、発達を支える方法について理解する。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 乳幼児のことばの発達を考える
3. ことばとしての身体表現
4. 生活やかかわりの中で育つことば：学びの物語の考え方
5. 保育者との関係性の中で育つことば～0、1歳児クラスのドキュメンテーションから
6. 保育者との関係性の中で育つことば～4、5歳児のドキュメンテーションから
7. 保育の中で育つ乳幼児のことば
8. ことばの発達と学びの意味を考える～グループワークでの対話

準備学習（予習・復習等）

参加観察の中で子どもとかかわりながら考える。

授業で紹介した参考文献や資料を読み、自己の課題を明確にしていくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポート30%
課題レポート70%

教科書

最新保育講座 保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美 編 ミネルヴァ書房

参考文献

その都度紹介する

障がい児保育

概要

障害の特性について学び、保育の中でのかかわり方について考える。
障害を持つ子どもの保護者を支えることについて学ぶ。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

障害特性について理解し、保育の中での子どもの見方やかかわり方について理解する。
保護者支援や機関連携について理解する。

各回の内容

1. 障害児保育とは
2. 障害を持つ子どもとのかかわり
3. 知的障害の子ども
4. 自閉症スペクトラム障害の子ども 1
5. 自閉症スペクトラム障害の子ども 2
6. 注意欠如多動性障害の子ども
7. 言語障害の子ども
8. 運動機能障害の子ども
9. 聴覚障害の子ども
10. 障害を持つ子どもの家族を支える
11. 診断から療育へ
12. 専門機関や医療機関とのつながり
13. 本人の気持ち
14. ケース会議の持ち方
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

実習の中で「気になる子ども」について記録し話し合う。

授業で紹介した事例や参考文献を読み、なお学びたいと思う自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポート40%

発表と課題レポート60%

教科書

ライフステージを見通した障害児の保育・教育 <シリーズ知のゆりかご> 小林 徹・栗山宣夫 編
みらい

参考文献

星山麻木 編 『障害児保育ワークブック』 萌文書林

乳幼児と共に

概要

3歳未満児の発達と保育内容について学び、乳幼児保育の役割や理論、技術について学ぶ。
未満児の発達の連続性や保育内容について、「親と子の広場」での保育参加観察等を通して、体験的に、共有しながら学びを深める。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

新生児から3歳未満児までの発達と保育内容を学び、乳幼児保育の基本的な理論、知識、技術について理解することができるようになる。

各回の内容

1. 乳児保育の理念と意義
2. 保育所における乳児保育の現状と課題
3. 乳児院における乳児保育の現状と課題
4. 家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
5. 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
6. 乳児保育における基本的な援助やかかわり
7. 6か月未満児の発達と保育内容 抱っこ、おむつ交換演習
8. 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容 調乳演習
9. 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
10. 2歳児の発達と保育内容
11. 乳児保育の計画と記録と評価
12. 乳児保育の環境づくり
13. 乳児保育における保育者の役割・乳児保育における保護者との連携
14. 地域との連携 ワークショップCAPこどもの暴力防止プログラム
15. 保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携 全体のまとめ

準備学習（予習・復習等）

次回講義内容を事前に読んでくること。「親と子の広場」等を通じて乳幼児と積極的にかかわりを持ち、その発達に関心を持って授業に臨む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業の振り返りシート 70%
乳幼児の発達と保育まとめレポート30%

教科書

乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために 吉本和子 エイデル研究社

参考文献

その都度紹介する

こどもの保健

概要

子どもに関わり支援する上で必要な健康についての理解を深める。
子どもの体の仕組みや、成長発達についての特徴を理解する。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。子どもの疾病とその予防法および適切な対応について理解する。

各回の内容

1. 子どもの健康と保健の意義
2. 子どもの成長・発達・発育の意味
3. 子どもの生理機能の発達と保健
4. 子どもの生理機能の発達と保健
5. 子どもの運動機能の発達と保健
6. 子どもの社会性の発達と保健
7. 子どもの情緒の発達と保健
8. 子どもの言葉の発達と保健
9. 子どもの認知能力の発達と保健
10. 子どもの病気と看護
11. 子どもの病気と看護
12. 子どもの病気と看護
13. 乳幼児の基本的ケア 授乳・調乳
14. 乳幼児の基本的ケア おむつ
15. 乳幼児の基本的ケア 抱っこ・おんぶ 全体のまとめ

準備学習（予習・復習等）

講義時に次回予告をするので教科書等で予習をすること。復習を行い内容の理解に努めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

確認の小テスト 3回実施 100%

教科書

兼松百合子『子どもの保健・実習ーすこやかな育ちをサポートするために』同文書院

参考文献

その都度、授業で紹介する

保育実習指導

概要

1年次は、保育実習（保育所）に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方に関する基本的事項などを理解する。また、実習日誌、指導案の書き方についても学ぶ。実習後2年次前半にかけては、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の自己課題を明確にする。

担当教員	長谷川・坂本・x
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

1・実習の意義や目的、内容を理解できる。2・子どもの人権、最善の利益の考慮、守秘義務について理解する。3・保育の計画、実践、記録、評価について理解する。4・実習で体験し学んだことを整理して確認し、自己の課題を明確にする。

各回の内容

1. 保育実習（保育所）事前指導：保育所についての基本的な理解、実習の概要
2. 保育実習（保育所）事前指導：実習の目的、心構え
3. 保育実習（保育所）事前指導：実習の内容
4. 保育実習（保育所）事前指導：子どもの人権と最善の利益、守秘義務について
5. 保育実習（保育所）事前指導：実習に向けての自己課題
6. 保育実習（保育所）事前指導：実習日誌の書き方についての指導
7. 保育実習（保育所）事前指導：実習日誌の書き方についての指導
8. 保育実習（保育所）事前指導：実習の計画、実践、評価の理解
9. 保育実習（保育所）事前指導：実習の計画、実践、評価の理解
10. 保育実習（保育所）事前指導：実習に際しての留意事項
11. 保育実習（保育所）事後指導：実習の体験の発表と共有化
12. 保育実習（保育所）事後指導：実習の体験の発表と共有化
13. 保育実習（保育所）事後指導：実習の自己評価と課題の発見
14. 保育実習（保育所）事後指導：実習の自己評価と課題の発見、個別指導
15. 保育実習（保育所）事後指導：実習の自己評価と課題の発見、個別指導

準備学習（予習・復習等）

配布資料や教科書を熟読し、実習の意義や観察の視点、記録の書き方などについて理解に努める。授業時間外でも、実習に向けて、教材研究や記録の練習などに取り組むこと。実習後は、体験を通しての学びを深め、今後の課題・目標を明らかにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。*学則第24条

評価方法

振り返り30%、課題レポート50%、提出物20%

教科書

- 1：福島県保育者養成校連絡会編「保育実習の手引き」 2：「保育所保育指針解説書」
3：「ことばと表現力を育む児童文化」、川勝泰介ら著、萌文書林

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習 (保育所)

概要

既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。さらに、保育所の役割や機能を理解し、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について、学びを深める。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下
授業形態	実習川・齋藤
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	10日間
単位数	2

目標

1・保育所の役割や機能、保育士の業務内容、職業倫理などを理解する。2・子どもの観察や関わりを通し、子ども理解を深める。3・保育の計画、観察、記録、評価などについて理解する。4・子どもの保育や保護者支援について、既習の教科内容も踏まえながら、総合的に学ぶ。

各回の内容

1. 10日間、以下の内容について実習を行う。詳細については、実習先によって異なる。
2. 保育所の役割や機能を理解する。
3. 保育士の役割や職業倫理、援助について理解する。
4. 保育所での子どもの生活について理解する。
5. 保育所保育指針に基づいた保育の展開について学ぶ。
6. 観察や記録を通して、子ども理解を深める。
7. 子どもの発達について理解する。
8. 子どもへの援助、関わりについて学ぶ。
9. 保育の計画に基づいた保育内容について理解する。
10. 遊びや生活、健康や安全を考慮した保育環境について学ぶ。
11. 記録に基づき、自己を省察、評価する。
12. 職員間の連携について学ぶ。

準備学習（予習・復習等）

実習の目標に向けて、各自準備を進めること。実習指導の授業時間外も教科書を読み、実習への理解を深める。実習前のオリエンテーションで実習指導担当者から事前準備など指示があった場合は、それに従う。実習後は、今後の課題を明確にし、その課題が達成できるよう、努めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

実習先の評価70%、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%

教科書

- 1：福島県保育者養成校連絡会編「保育実習の手引き」 2：「保育所保育指針解説書」

参考文献

なし

保育表現技術(身体表現)

概要

子どもの発達過程に沿った、運動遊びやリズム遊び、手遊びを取り入れ、体験を通じた実感に基づき、保育演習（模擬保育）を行い、省察する。

担当教員	堺 秋彦・石山 波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

「身体表現」の意味を理解し、表現活動に関する知識や技術を習得する。
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするための必要な知識や技術を習得する。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 子どもの発達過程に基づくリズム遊びのあり方と実践
3. 子どもの発達過程に基づく手遊びのあり方と実践
4. 子どもの発達過程に基づく運動遊び（室内遊び）のあり方と実践
5. 子どもの発達過程に基づく保育（身体活動）演習
6. 子どもの発達過程に基づく保育（身体活動）演習
7. 子どもの発達過程に基づく保育（身体活動）演習
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・予習として、本やインターネットで「手遊び」や「運動遊び」「リズム遊び」を調べ、保育演習の準備をグループで進める。
- ・復習として、保育実践を省察し、振り返りレポートを作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

表現力 50%（子どもが興味・関心を持って活動に取り組むことができる表情や言葉掛けができている）
保育演習 50%（子どもの発達段階に基づいた身体活動を計画し保育実践を行え、省察が適切である）

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術 (身体表現)

概要

保育表現技術(身体表現)に引き続き、子どもの発達に沿った、運動遊びやリズム遊び、手遊びを取り入れ、体験を通じた実践に基づき、保育演習(模擬保育)を行い、省察する。

担当教員	堺 秋彦・石山 波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

「身体表現」に関する知識や技術を習得する。
表現活動に係る教材を作成し、保育演習を行い、保育の環境構成及び具体的技術を習得する。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる身体活動の考察と実践
3. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる身体活動における教材の工夫と実践
4. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる身体活動になるための環境設定の工夫と実践
5. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる保育(身体活動)演習
6. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる保育(身体活動)演習
7. 子どもが興味・関心を持ち夢中になる保育(身体活動)演習
8. まとめ

準備学習(予習・復習等)

- ・予習として、本やインターネットで「手遊び」や「運動遊び」「リズム遊び」を調べ、保育演習の準備(教材作成、安全面を考慮した環境設定に基づく指導計画等)をグループで進める。
- ・復習として、保育演習を省察し、振り返りレポートを作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

表現力 50%(子どもが興味関心を持って活動に取り組むことができる表情や言葉掛け、援助ができている)
保育演習 50%(子どもが興味・関心を持って夢中になるための環境設定のもと、演習(身体活動)を行い、省察が適切である)

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術 (身体表現)

概要

見立てごっこやごっこ遊び等を取り入れながら、子どもの遊びを豊かに展開するための知識や技術を習得する。また、身体表現であるリズム遊びを行い、発達段階にあったリズム遊びを創作する。

担当教員	堺秋彦・石山波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育の内容と子ども発達段階を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するための必要な知識や技術を習得する。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 表現活動と身体表現を結びつける遊びの展開について・リズム遊び創作
3. 子どもの遊びについて・リズム遊び創作
4. 豊かな遊びになるための環境設定
5. リズム遊び指導法
6. リズム遊び練習法
7. リズム遊び練習法
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・本やインターネット等を利用して「身体表現」について調べる。
- ・グループで「リズム遊び」を創作する。
- ・創作した「リズム遊び」をグループで練習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

表現力・創作力 50%
課題達成度 50%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術 (身体表現)

概要

保育現場における「お遊戯会」をイメージし、芸術表現発表会に向けて、グループごとに子どもの身体発達及びリズム発達について考えながらリズム遊びを創作し、練習を通して、保育者に必要な表現力を身に付ける。

担当教員	堺 秋彦・石山波恵・小林真理
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

リズム遊びを通して、子どもの身体発達及びリズム発達を理解する。また、グループにおける企画、準備、練習を通じて、保育者に必要なコミュニケーション能力を向上させると共に保育者としての「表現力」を高めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ・子どもの興味関心を引く保育者の表現方法 ・創作リズム遊び練習
3. ・子どもの想像力を豊かにする保育者の表現方法 ・創作リズム遊び練習
4. ・子どもが自発的に活動する保育者の表現方法 ・創作リズム遊び練習
5. ・子どもの運動機能の発達を向上させる保育者の表現方法 ・創作リズム遊び練習
6. ・子どもの遊びを豊かに展開するための「身体表現発表会」(芸術表現発表会)
7. ・子どもの遊びを豊かに展開するための保育者の表現方法の振り返り
8. まとめ

準備学習(予習・復習等)

- ・本やインターネット等を利用して「身体表現」について調べる。
- ・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針等を読み、「子どもの遊び」と「保育者の援助の仕方」について理解する。
- ・グループで「リズム遊び」を創作する。
- ・創作した「リズム遊び」をグループで練習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

表現力50% (子どもが興味、関心を持ち、自発的活動を展開し、夢中になって活動に取り組む表現力、方法である【表情が豊かである、声に抑揚をつける、子どもがイメージしやすい表現である】)
課題達成度 50% (子どもがどのようなことに興味、関心を持ち、どのような働き掛けにおいて自発的に活動するのかを理解する)

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

こどもと絵本

概要

保育の中での絵本読みあいの意味や方法について考える。
絵本読みあいにおける、こどものイメージや想像性の発展について考え、読みあいを使用する絵本の選択や、読みあいの工夫について考える。部分実習の指導案を作成して模擬保育を行い、省察をする。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・絵本読みあいの歴史から、読みあいの意味について考える
- ・部分実習指導案の作成とともに模擬保育の実践を行い、保育実習に臨む課題について考える。

各回の内容

1. 子どもの文化財の役割と活用

2. 絵本読みあいの歴史から考える

3. 幼稚園での読みあいから考えたこと1

4. 幼稚園での読みあいから考えたこと2

5. 読みあいに使いたい絵本を選ぶ

6. 読みあいの実演：グループワーク1

7. 読みあいの実演：グループワーク2

8. グループワークの内容を紹介する

9. 未満児の絵本を選んでみよう

10. 指導案を作ってみよう1

11. 部分指導案をもとに実演をする1

12. 絵本読みあい実演とグループワーク

13. 部分指導案をもとに実演する2

14. 省察

15. 省察 まとめ

準備学習（予習・復習等）

絵本の読みあいに関心を持ち、子どもに合った絵本の選択をする。

授業で紹介した絵本の読み聞かせを実践し、省察を繰り返しながら自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

指導案作成と実演50%

最終課題50%

教科書

絵本から学ぶ子どもの文化 同文書院 浅木尚実編

参考文献

その都度紹介する